


第248回 都市懇サロン レポート	(Webセミナー) 郊外の空きストックの活かしたまちづくり タウンキッチンのビジネス・郊外の空ストック活用の事例・郊外ならではの可能性		
講師	北池 智一郎 氏 ((株) タウンキッチン代表)	開催日	令和3年3月9日(火) 18:00~20:00
講師 プロフィール	<p>1976年大阪生まれ。 大阪大学工学部を卒業後、コンサルティングファームを経て、2005年より外食ベンチャーに勤務。 2008年に独立後、株式会社タウンキッチンを立ち上げ、東京・多摩エリアを拠点に、地域づくり・仕事づくりのコーディネートに取り組んでいる。</p>		
お話の概要	<p>(株)タウンキッチン → 空きストックを活用した郊外での創業支援を手がける。 【ソフト系事業】創業相談・創業セミナー、ウェブマガジンによる情報発信 ・20~30代を都心部で働き実力を付けたサラリーマンや子育てが一段落した主婦等、郊外部において創業を希望している方は、水面下で考えている層を含めても非常に多いと認識している。タウンキッチンでは、相談やセミナー等により、地元のまちで活躍ができるよう創業支援を行っている。 ・例1：放送局で認知症ドキュメンタリーを作っていたディレクターが、プレイヤーとして地域の認知症の方々を支えるNPO法人を立ち上げる。 ・例2：子供が小麦アレルギーを持っており、母としてグルテンフリーの食品を研究していた。地域の繋がりの中で同じ悩みを持つ方が多いことを知り、個人事業主として店舗を開いた。 【ハード系事業】創業時の初期投資が抑えられるシェアオフィス・キッチンの運営 ・小金井市を中心として、鉄道高架下等を活用したシェアオフィス・シェアキッチンを整備。郊外部にも関わらず259社の年間契約ができており、非常に稼働率が高い。郊外での独立志望や小商いの需要は相当に高いと実感できる。 ・シェアキッチンについては類似施設が少ないことからニーズも高く、ここで商いをするために引っ越しをした方もいる。近年のデリバリーサービスの発展により、飲食スペースを設けない店舗は、今後相当増えていくと予想している。 ・創業支援の一環として運営しているため低賃料での設定となる。時には条件面で苦労することもある。 ・地元である小金井市以外で相談を受け事業展開する場合には、自治体・鉄道事業者・信用金庫等、その地域の経済やまちづくりを支える事ができるパートナーと連携して進める事を前提としている。 ・近年の空き家問題にも着目しており、多くの方に使って貰いやすいような施設の企画を心がける。シビックプライドの醸成のためにはバイトやパートではなく、地域住民(事業主)が表に立っている店舗を増やしていく事も重要。</p>		
意見交換の概要	<p>●小金井市以外の地域での展開では、自社で営業をかけているのか？ → 自社営業は行っておらず、自治体等から依頼や相談があって初めて施設の企画が始まる。形態としては公設公営、民説民営等、様々である。 ●低賃料を実現させるためにどのような仕組みがあるか？ → 施設整備にあたり自治体の補助が導入できる事が重要となってくる。また鉄道事業者等が主体となるケースでは、施設自体で利益を上げる事を目的とせず、地域発展を目的としていることから実現できている場合もある。 ●コロナによる郊外の需要増は感じるか？ → ここ1年での需要増は非常に実感できる。緊急事態宣言を契機に思い切りがついて創業を決断した方が増えた印象である。</p>		
記録者のひとこと	<p>創業支援に取り組む会社の話は自身として初めての機会であり、非常に興味深かった。コロナによる需要の変化も大きかったようで、この1年で人の生活様式が大きく変化している事が実感できた講演だった。 <<都市懇サロン運営部会 委員 安政翔>></p>		